

# CASBEE<sup>®</sup> - 建築(新築)

# 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)九州電気保安協会 社屋 新築工事	階数	地上8F
建設地	福岡県福岡市博多区東比恵3丁目325番	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	150 人
地域区分	7地域	年間使用時間	5,475 時間/年
建物用途	事務所、飲食店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年9月 予定	評価の実施日	
敷地面積	1,006 m <sup>2</sup>	作成者	大浦 貴浩
建築面積	625 m <sup>2</sup>	確認日	2016年12月12日
延床面積	4,359 m <sup>2</sup>	確認者	大浦貴浩



ださい

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.8</b></p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★ ★ ★ ★ ★</p> <p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア = 3.1</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 3.4</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 3.6</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア = 2.4</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア = 3.8</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 4.1</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 3.3</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.8</p>

3 設計上の配慮事項		その他
<p><b>総合</b></p> <p>建物を可能な限り整形とし、高さも最低限に抑えることで、周囲に調和した建物構成を目指した。</p>		0
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>空調を行う室のガラスはLOW-eガラスとし、熱負荷を抑え、内装材に化学汚染物質を使用せず、室内環境の向上を図った。</p> <p>また、外部へは水平・垂直ルーバーを設けることで、日</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>福岡市まちづくり条例に準拠し、バリアフリーな建物とした。</p> <p>維持管理に配慮した設計として、防汚性の高い塗装や効果的な水切等による外壁汚れの防止、</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>建物前面に自然樹形の高木を配置し、まちなみや景観に配置した。</p> <p>また、境界部には連続した塀等を作らずに見通しの良いフェンスを設けることで</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>屋上には太陽光発電設備を設けることで、自然エネルギーの利用を図った。</p> <p>また、モニタリング設備を設けることで、運用時の消費エネルギーを継続して把握できるよう配慮した。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>雨水利用システムを採用することで、災害時にも水回り等の利用が可能のように配慮した。</p> <p>また、省水型機器を設置することで、節水への取り組みを行った。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>燃焼機器を使用しない計画とすることで、外部空間への大気汚染物質の発生に配慮した。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される